

悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子

イラスト/清水直子



第24回

喘息でもトップ・アスリート

★ オリンピック日本代表 候補の12%は喘息患者

秋は喘息発作が起きやすい季節です。夏の疲れなどが影響しています。最近、話をうかがった何人かの小児アレルギー専門医によると、今年はずいぶん前から喘息の悪化で受診する人が増えているそうです。こんな時こそ、普段にも増して喘息の標準治療つまり「発作を起こさない治療」をしっかり行ないましょう。

おさらいになりますが、喘息の治療は大きく変わりました。喘息はかつて発作が起きていない時に気管支は正常で、発作が起きた時だけ気道が狭くなり苦しくなるとされてきました。ところが病気の解明が進んで、実は発作が起きていない時も気道の

粘膜にアレルギー性の炎症があることが分かりました。従って治療も「起きた発作を止める治療」から、普段から気道の炎症をなくして「発作を起こさないようにする治療」に変わりました。

こうした治療が可能になってから、喘息でも世界で活躍するトップ・アスリートが増えています。記憶に新しいサッカーのアジアカップで大活躍した岡崎慎司選手、オリンピックではスピードスケート金メダリストの清水宏保選手、アテネ、北京のオリンピック2大会で金メダルを獲得した女子柔道の谷本歩実選手、フットボールでは小笠原道大選手や藤川球児選手、プロゴルファーの福嶋晃子選手、ラグビーの栗原徹選手など、喘息の影響を全く感じさせな



そのべ・まり子 ●神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

い活躍がります。また北京オリンピックの日本代表候補選手482人のうち、12%は喘息患者でした。

もしお子さんが喘息と診断されていて、治療しているけれどもしばしば発作を起こす、秋になると入院するなどというのであれば、治療が不十分であることを示しています。発作を起こさないようにする長期管理薬が処方されているかどうかなど治療の見直しが必要かもしれません。

適切な治療を受け、運動会や好きなスポーツで活躍するわが家のトップ・アスリートになつてもらいましょ。

講演会のお知らせ

アレルギーを考える母の会は10月16日(日)、横浜で講演会「正しく知ろう！ アトピー性皮膚炎の治療」を開催します。内容・申し込み方法など詳細は会のHP、<http://www.hahanokai.org/>をご覧ください。